

科目名	学校心理学			ナンバリング	PSY341	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	名取洋典	担当教員					

授業の概要	<p>学校教育の現場では、学習困難、いじめ、非行など、様々な問題で児童・生徒が支援を必要としている。この授業では、これらの問題を抱える児童・生徒の学校生活の質を向上させる心理教育的援助サービスについて学ぶことを目的としている。子ども、およびその子どもを取り巻く環境(学級、学校など)を支援するためのアセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーションについて学び、学校内で実施可能な心理・社会的的支援について理解を深める。特に、いじめ、不登校、発達障害などの学校不適応に焦点を当てて学習する。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学校心理学の基本的な用語を説明することができる 2. 学校内で実施可能な心理・教育的援助サービスについて説明することができる 3. これまでの自分の学校生活をふり返り、授業で学んだ内容と自分の経験を関連づけることができる 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心の科学、認知の科学、適応の心理、発達心理学を履修していると、授業内容がより理解しやすくなる。 2. 授業内で小テストを実施するため、各回のキーワードについて予習しておくこと。また、後半の授業ではグループで課題に取り組むことが必要となる。自分の予習した内容をグループの回答に反映できるよう、他者に説明できるレベルで予習すること。 						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1 心理教育的援助サービスに関するキーワードを説明できる。 2 学校心理学の文脈で取り上げる各障害の特徴について説明できる。 3 子どもや保護者に障害を伝える際の注意点を説明できる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 心理教育的援助サービスに関するキーワードを自身の言葉で説明できる。 2 授業で学んだ心理教育的援助サービスと自身の経験を結びつけることができる。 3 学校心理学の文脈で取り上げる各障害のその援助方法について説明できる。 4 子どもや保護者に障害を伝える際の注意点を考慮した、障害の説明文を作成できる。

成績評価観点 評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
小テスト・授業内レポート	○	○					40%
宿題・授業外レポート	○	○					55%
授業態度・授業への参加				○			5%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内で行った課題について授業内、およびmanab@IMUでフィードバックを行う 2. 毎回の質問に対しては、次回の授業の冒頭で説明を行う
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	講義全体の流れ、グループワークの方法、毎回の課題提出の方法について説明する。	
	第2回	学校心理学の基礎	心理学の各分野が、子ども、および子どもを取り巻く環境にどのように関連しているかを説明する。	
	第3回	ヘルパー	ヘルパーの種類とその特徴について説明する。	
	第4回	アセスメント	心理教育的アセスメントの必要性、特徴、利用方法の概略を説明する。	
	第5回	カウンセリング(1)	カウンセリングに関する基礎的知識を説明する。	
	第6回	カウンセリング(2)	カウンセリングの映像を見て、普段の話の聴き方との相違について議論する。	
	第7回	コンサルテーション・コーディネーション	コンサルテーションとコーディネーションの特徴について説明する。	
	第8回	不登校・ひきこもり	不登校・ひきこもりの特徴とその援助について説明する。	
	第9回	いじめ	いじめの特徴と被害者へ援助について説明する。	
	第10回	特別支援教育(1)	知的能力障害の特徴とその援助について説明する。	
	第11回	特別支援教育(2)	注意欠如・多動症の特徴とその援助について説明する。	
	第12回	特別支援教育(3)	自閉スペクトラム症の特徴とその援助について説明する。	
	第13回	特別支援教育(4)	限局性学習症の特徴とその援助について説明する。	
	第14回	特別支援教育(5)	障害のある子どもの特徴を説明する際に必要な要素について概説する。	
	第15回	まとめ	第1回から第14回までの授業の要点を整理する。	
		試験	期末試験は実施しない。	
授業の進め方	第8回までは講義と確認テストを授業時間内に行う。第9回からは、授業時間内に個人テスト、グループテスト、応用課題に取り組む。			
授業外学習の指示	各回のキーワードを参考に事前に内容を予習し、授業後は配付資料を中心に講義の内容を復習する。第9回からは各トピックについて事前学習を行い、事前レポートを作成する。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)			

教科書	指定しない。講義内で配付する資料を参考にすること。
参考書	授業内で適宜紹介する。
参考URLなど	
その他	manab@IMUを用いて課題・リフレクションシートの提出が求められるので、その操作に慣れておくこと。